

日本最大の製油所（昭和 30 年代後半）

登録番号	第 0 1 2 号
名称（型式等）	出光興産株式会社千葉製油所
所在地	千葉県市原市姉崎海岸 2 番地 1
設立年	昭和 38（1963）年

選定理由

昭和38（1963）年1月、京葉工業地域の一角に出光興産株式会社の千葉製油所が完成した。この製油所は、当時日本最大の1日10万バーレル※の原油処理能力を持ち、当時世界最大の浮屋根式6万tタンクも持っていた。千葉製油所建設の目標は、石油の需要が年々急増するなかで、主に京浜地区を中心とする需要に対処することであった。

現在、1日20万バーレルの原油処理能力を持ち、出光興産株式会社の基幹事業所として最先端の装置やシステムを多数導入し、首都圏を中心とした需要に対応している。隣接する千葉工場へは50本のパイプラインでナフサやLPG等が送られ、千葉工場ではプラスチック成形加工用のポリマー（合成樹脂）等を生産している。平成29（2017）年10月から石油精製と石油化学の一体運営による一層の競争力強化を目的とし、千葉製油所と千葉工場を統合し、千葉事業所を発足させる。

※1バーレルは約1600



千葉製油所全景（昭和 38 年）

製油所の役割

原油を加熱炉で熱して蒸気にし、蒸留塔に送り込む。そして、沸とう温度別に重油、軽油、ジェット燃料油、灯油、ガソリン、ナフサ、液化石油ガス等の色々な石油製品に分ける。また、大気汚染の原因となる硫黄分を取り除く。



現在の千葉製油所と千葉工場



千葉製油所と千葉工場をつなぐパイプライン

参考資料 1) 出光興産株式会社ホームページ

2) 千葉県工業歴史資料調査報告書第5号（1997） 3) 「大切に使おう みんなの石油」出光興産株式会社